

編集後記

相手を知るためには会話が必要不可欠だと思います。その際、自分の何気ない言葉が相手を不快にさせていないか、些細なことでもハラスメントになっていないか、編集委員を務めて改めて考えるきっかけとなりました。

特集記事の座談会では、当たり障りないと感じた話題でも様々な意見が出て、その後の友人との会話で、どの様な話をしたら良いのか悩みました。

しかし、「様々な考えがあることに気付くこと・思いやることが大切」という言葉で気が楽になりました。これからの人付き合いにおいて、この言葉を胸に留めておきたいです。

臼井

近年はハラスメントについて意識の向上が著しく、昔よりも遥かに改善されている印象はありますが、反対に意識され過ぎることでの弊害も多くなっていると感じます。

これからの日本社会にとってどの程度が良いバランスなのかを見つけることが大切なのではないでしょうか。

編集作業では、他の委員の皆様にご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

木村

戦後「家制度」は廃止されましたが、男尊女卑の価値観は未だに残っています。世代が変わっても親から子、子から孫へと連鎖され、簡単には消えていきません。法令や教育などの整備も重要ですが、特に親世代に対しては啓発活動などの取り組みが必要だと思います。

私の若い頃は「ハラスメント」なんて言葉も概念も存在しませんでした。

編集委員を務めることで、自分自身も「人権」や「ハラスメント」への意識を高めることができましたが、記事を読んでいただくことで意識付けのきっかけになればと思います。

杉山

委員を経験して、自分の普段の言動や行動がハラスメントになり得るかもしれないことに気付きました。たとえ自分には悪意なく人と接したとしても、相手の受け取り方次第で意味合いが変わってしまいます。

このことにやりづらさを感じるかもしれませんが、自分はハラスメントに怯えて相手に接するより、相手のことを理解して行動する・相手に自分の思いを伝えることが大事だと考えます。

相手を思いやる気持ちと自分自身を大切にすることを大切にする気持ちを持つ人が増えていけば良いと思います。

熊王

編集に携わりジェンダーやハラスメントについて意識することが多くなりました。

パワハラも然り、女性の活躍を口ではわかったように語りながらも、本音本質は異なっていて理想とは違うことが少なくありません。

社会の中に浸透し思わせていることが、少しずつ変化し、世代による多様性の認識や価値観のズレがなくなっていくと良いと思います。

杉浦

日頃、若い人と一緒に何かを作り上げることがないため、大学生の人たちと同じ目線で作業をすることができて、とても楽しかったです。

編集の過程で、座談会や意見交換により、一つの事象についても様々な考え方があることが改めてわかりました。感じ方は人それぞれ。違って当たり前だと受け入れ、相手の立場を思いやることが、男女共同参画社会への第一歩だと思います。

編集委員を経験して、色々学ぶこともあったので、多くの人に携わっていただきたいです。

鈴木

情報誌「RUNらんらん」は、市民編集委員が企画・編集しています。

女性相談・男性相談

自分のこと、夫婦・家族のこと、仕事のこと。ひとりで悩まないでまずは気軽に相談してみませんか。今まで、年代や回数を問わず、多くの方が自分の悩みを相談しています。

相談番号(予約時): 054-643-3198
(男女共同参画・多文化共生課)

【女性相談】 毎週火・木曜日(対面・電話)
①13:30~、②14:30~ ③15:30~
※事前予約制

【男性相談】 毎週水曜日(電話のみ)
第3水曜: 17:00~20:00 ※予約不要
それ以外の水曜: 13:30~16:15 ※時間予約可

あなたもこの情報誌をつくってみませんか
市では、令和5年度・6年度の「RUNらんらん」市民編集委員を募集します。詳しくは、HPまたは男女共同参画・多文化共生課へお問い合わせください。

男女共同参画社会づくり情報誌

RUNらんらん

2023.2.5 vol.25

この情報誌の感想をお聞かせください！

この記事の感想や自分が考える男女共同参画について教えてください。アンケートにお答えいただいた方に抽選で藤枝の特産品を贈呈します。



※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

【発行】 藤枝市男女共同参画・多文化共生課
住 所: 藤枝市岡上山1-11-1
電 話: 054-643-3198
メール: danjo@city.fujieda.shizuoka.jp



何歳？

パワハラ

女らしく
男らしく

マタハラ

どこの
大学？

これって

ハラスメント??

—大学生と地域の方がそれぞれ思うこと—

目次

- 【特集】ハラスメントに関する座談会(大学生と地域の方)
- パパだって育休をとりたい！(男性育休に関する記事)
- コラム「誰もが生きやすい社会」 土居繭子(静岡産業大学 経営学部 准教授)
- 男女共同参画推進事業所の紹介
- 編集後記



これって ハラス メント??

「ハラスメント」最近何かと話題にあがる言葉です。「セクハラ」、「パワハラ」など、今や多くの人
が知っているハラスメントに限らず、日常の
ちょっとしたことの中にも、「ハラスメントで
は?」と思ったことがあるかもしれません。今回は
4つのテーマについて、大学生と地域の方がそれ
ぞれ思うことを話し合ってもらいました。

大学生の意見

ランドセルの色が他の子達と違うという理由で女の子がいじめられていた。

メイクに関しては、男性がしていても気にならない。女性も男性もやり過ぎでなければ良いと思う。

男性アイドルが好きなのだが、「男が男性アイドルを推すのはおかしい」と言われてしまった。

周囲の目が気になり、甘いものが好きだけれど、男だけでスイーツを食べには行きにくい。



編集委員コメント

今の時代は、本音はともかく建前では男女平等の風潮が出てきてはいますが、性別軽視の発言は少なくありません。

男だから、女だからではなく、しかるべき能力があれば尊重され、性別に関係なく自分らしさが大切にされるようになれば良いと思います。



テーマ1

「女らしく」 「男らしく」



地域の方の意見

「男らしさ」や「女らしさ」に捉われず、本人が興味をもったことは尊重したい。

昔からの教育の中で、男らしく・女らしくと叩き込まれてきた。今は時代の流れの中で、若い世代の意識は変わってきている。

男性がメイクをすることについては、自分ではしたいと思わないが、他の人がしていても気にならない。スカートなのに足を広げるなど、相手が不快に思うことは性別にかかわらず注意する。

「長男だから」と言われ続け、就職や家のことなどで自分の希望どおりにならず苦労した。子どもにはその様な思いをさせないようにしている。



大学生の意見

親しい人から「お前」と呼ばれることは良いが、あまり親しくない相手から言われるのは嫌だ。

男は「くん」、女は「さん」で呼び方を区別している教師が、名前の表記だけで生徒の性別を間違えていて気になった。

性別で呼び方を分けずに、敬称を統一してくれたら気にならない。

「あなた」と呼ぶことは丁寧だけど、友達から言われたら壁を感じてしまう。

友達でも「あんた」とか「お前」じゃなくて、名前で呼んでほしい。

テーマ2

「お前」「あんた」 「君」「ちゃん」 などの呼び方



地域の方の意見

嫁ぎ先で何度も「あんた」と呼ばれて驚きや不快感があり、戸惑った。

親戚や年配の方に「お前」と呼ばれても不快に感じることはないが、嫌だったらそう伝える。

敬称を「さん」で統一している職場で、一部の部下を特別扱いして「ちゃん」を付けて呼ぶ上司を見て不快感を覚えた。

藤枝に転勤してきたとき、女性社員に対してみんなが下の名前で呼び捨てにしているのが驚いたが、土地柄によるものかと納得してしまった。



編集委員コメント

親しい間柄や、信頼を築いた上での呼び方は特に問題視されていませんが、関係が浅いうちは「名前」+「さん」付けで呼ぶことが無難なようです。

「お前」や「あなた」と呼ぶことは賛否両論ありますが、相手との信頼関係を確かめた上で使うと良いのでは。また、相手のみならず、周囲からの受け取られ方にも気を付ける必要があります。

受け取り手の感情に年代の差はありませんが、嫌な時に嫌だと伝えられない場面もありますので、敬称を用いる際は相手の気持ちを推しはかることが求められます。

テーマ3 「何歳？」 「どこの大学？」

大学生の意見



年齢については、初対面では共通の話題もないので、距離感を測るためと失礼が無いように、あえて聞くようにしている。

「結婚はまだ？」など、ズカズカ入っていく質問はダメかな。姉にも、つい言いっちゃうけど、ブーメランの様に自分にも返ってくる。(笑)

初対面では、関係性を把握するのに基本的な情報は聞いてしまう。

人によっては、聞いてくれて距離感が縮まるからありがたいと思うこともある。

人によっては聞かれて嫌だと思ってしまう。

「どこの大学？」って聞かれて、負い目があったりすると、傷つくこともあると思う。

友人が大学名を聞かれたので答えたが、相手に小馬鹿にされたと感じたようだ。「聞く」「聞かない」は難しい問題だ。

大学名を聞かれても、自信を持っていれば嫌じゃない。



地域の方の意見

自分との繋がりや話題作りのために、失礼かと思いつつ、年齢は聞いてしまう。

どんな人か知るために、年齢や学校などは聞きたいが、今は聞かない方がよい風潮になっていると思う。

必要があれば聞くが、聞く時は自分から先に言うようにしている。

話題やきっかけ作りとして聞いてしまう。仲良くなりたいために年齢などを聞くことがあるけれど、嫌だと思ってしまう人もいます。

職場で、自分のプライベートなことを根掘り葉掘り聞かれて嫌な思いをして、上司に訴えたことがあった。

相手が劣等感を感じていそうなことをあえて質問することで、自分が優位に立とうとする人がいた。

答えにくい質問をされても、嫌だったらそう言えばよいし、うまく答えればよい。

嫌と言える人がたくさんいれば風通しが良くなると思うが、言えなくて傷つく人がいることについて、この記事が「気づき」になると良い。



編集委員コメント

学生も地域の方も共通して、話題作りや距離感を測ったり詰めたりするために、年齢などを聞くことは多いようです。ただ、人によっては聞かれて嫌なこともあるし、あまりズカズカ入っていくことは問題になりそうです。

学歴や職業、年収、年齢などの社会的ステータスについての質問は、自分が相手より優位にあるとアピールする(いわゆる『マウントを取る』)行為と受け取られ、相手に不快感を与えることがあるので注意が必要です。

編集委員より

テーマ4

「マタハラ」や「パワハラ」



地域の方の意見

大学生の意見

男性も育休を必ず一度は取得すれば良いという考えもあるが、この話題は、子どものいない夫婦には話しにくいと思う。

男性が本人の意思に反して、育休を強制的に取得しなければならない雰囲気になるのは問題。

世間では育児は女性がやるべきと考えていて嫌。

職場などでのパワハラは、絶対やってはいけないハラスメントだと思う。

運動部の顧問は厳しかったので親には不評だったが、言葉の裏に愛を感じ、パワハラとは思わなかった。

自分が入社した当時は、新人への雑用の押し付けや言い訳した際に怒鳴られるなど、パワハラ行為は当たり前だった。

昔は上司が怒鳴ることもあったが、今は電話で相談できるホットラインの制度があるので安心。

嫌なことを言う人からは離れる。付き合いを控える。

パワハラと熱血指導は紙一重。双方のとらえ方で変わるので、相手を思いやることが大切。

男性も育休を取得して、家事に加え夜泣きや病院対応まで育児全般をするべき。



編集委員コメント

マタハラやパワハラについては、社会で働いた経験の少ない大学生の皆さんにはコメントしづらかったと思います。

ハラスメントは相手の心に暴力を振るう行為です。その中でも特にパワハラは自分の優位な立場を利用して相手を傷つける卑劣な行為だと感じます。

大学生と地域の方の意見を聞いて

ハラスメントの多くは、無意識の思い込み、偏見が原因で引き起こされているのではないのでしょうか。

人は生まれてすぐ家族から、小学校に入学する頃は教師や友達、周りの大人からと、年齢が上がるにつれ行動範囲が広がり、周囲の多くの人たちから影響を受けながら成長していきます。育った地域によっても、その地域独特の風習や考え方もあるだろうし、生まれ持ったその人自身の個性もあるかと思えます。(この様な「無意識の思い込みや偏見」のことを「アンコンシャスバイアス」と言います。)

社会に出ればいろいろな考え方や価値観をもった人がいて、その考え方や価値観が自分と大きく異

なった場合、そこにハラスメントが発生してしまうのではないかと考えられます。

人には「考える力」や「学ぶ力」、そして「気づき」があります。社会の中で暮らしていく上で、皆さんがハラスメントを意識して、思いやりの心を持って人と接していれば、つらい思いをする人が減っていくと思うのです。

今回、掲載したコメントはいただいた御意見の一部ですが、読んで何か気づいて、一人一人がそれを行動に結びつけていければ、誰もが暮らしやすい社会に近づくのではないのでしょうか。

ハラスメントに関する相談は、こちらへ

	窓口名	相談概要	対応日時	連絡先
【藤枝市の相談窓口】	女性相談(要予約)	女性の悩みなど一般	毎週火曜・木曜 13:30～16:15	☎054-643-3198 (男女共同参画・多文化共生課)
	男性相談(第3水曜以外は時間予約可)	男性の悩みなど一般	毎月第3水曜(予約不要) 17:00～20:00 毎月第1・2・4・5水曜 13:30～16:15	
	法律(要予約) ※予約時内容確認有	民事上の法律問題全般	毎月第1水曜日 13:00～16:00 毎月第2・3・4水曜 9:00～12:00/13:00～16:00 ※詳細は、開催日前月の広報ふじえだ20日号で確認ください。	☎054-643-3318 (市民相談センター) ※電話で事前にご相談ください。
	労働相談(要予約)	労働者・雇用主それぞれが抱える労働トラブル	毎月第2月曜日 13:30～16:00 ※詳細は、開催日前月の広報ふじえだ20日号で確認ください。	
	あざれあ女性相談(県男女共同参画課)	自分の生き方、夫やパートナーとの関係など	月・火・木・金曜 9:00～16:00 水曜 14:00～20:00 土曜 13:00～18:00	☎054-272-7879 (中部) ※メール相談有
【静岡県の相談窓口】	あざれあ男性相談(県男女共同参画課)	自分の生き方、家庭の問題、仕事の悩みなど	毎月第1・第3土曜 13:00～17:00	☎054-272-7880
	ふじのくにLGBT電話相談	性のあり方に関する悩み、職場等での困りごと	毎月第1火曜・第3土曜 18:00～22:00	☎0120-279-585
	県人権啓発センター	差別やいじめなど人権問題について	月曜～金曜 9:00～16:30	☎054-221-3330

※この他にも、国や県の相談窓口があります。

パパだって育休をとりたい!

家族にとって、新たな命が生まれることは最大のイベントと言ってもよいのではないのでしょうか。しかし、子どもが生まれても父親が休みをとる人は女性が9割を超えるのに父親が育休を取得することを目指し、様々な施策に取り組ん

まれることは最大のイベントと言ってもよいのではないのでしょうか。しかし、子どもが生まれても父親が休みをとる人は女性が9割を超えるのに父親が育休を取得することを目指し、様々な施策に取り組んでいきます。



取組1 藤枝市育休シンポジウムの開催



令和4年7月18日(月・祝)に、男性育休をテーマとしたシンポジウムを開催しました。その中のトークセッションでは、実際に男性で育休を取得した方や企業の管理職などを交え、男性が育休を取得できる社会になるために必要なことについて、意見を交わしました。ここでは、これから社会に出る大学生が、このシンポジウムを聞いて、どの様な感想をもったのかを紹介します。

(協力:静岡産業大学)

育休がとれる会社を選びたい

男性が育休を取得してもおかしくない世の中になり始めていますが、実際の取得率は1割台とまだまだこれからの状況です。自分は育休を取りたいと思うので、就職する際は、育休取得率の確認や、実際に会社が育休を取れる環境づくりをしているかなどを調べようと思いました。

会社よりも家族を優先するべき

大半の男性が、自分がいないとこの仕事が回らない、男が育休をとるなんて…と考えると育休をとれないのではと思います。しかし、育児は夫婦でするものなので、周りの目を気にせず、当然の権利だと胸を張って育休を取得してほしいです。会社よりも家族を優先するべきだと、社会全体で肯定できるようになればよいと思います。

相手にも育休をとってほしい

将来の話ですが、自分も仕事を続けたく、自分だけに育児を任せられては、仕事になかなか復帰することが難しいと思います。また、夫婦2人で育児の大変さを分かち合えば、より家族の絆を深めることができると思います。1人だけだと「産後うつ」になってしまう可能性があるため、パートナーにも協力してほしいです。

大学生が思ったこと・感じたこと



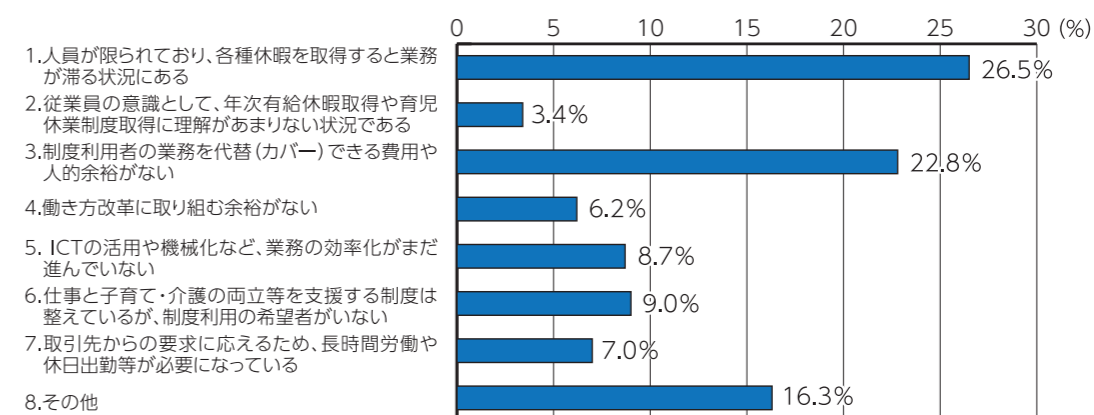
取組2 「日本一働きやすい職場環境づくり会議」の設置



市では、市内で働く誰もが仕事と家庭などのプライベートの調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現させ、幸せを実感できる職場環境を整えるために必要な施策を検討する「日本一働きやすい職場環境づくり会議」を設置しました。令和4年11月から会議を開催しており、市内事業所、金融機関、市民団体の代表者や学識経験者がそれぞれの立場から現状、課題、取り組むべき方向性などの意見を交わしています。

今年度は、「男性の育休取得」を主要なテーマとし、事業所や行政の立場から、取り組むべき施策を検討し、令和5年3月に市内企業の経営者等へ提言を行います。

【参考】各企業で育児休業の取得や時間外労働の削減など、ワーク・ライフ・バランスが進まない理由 (令和4年度藤枝市企業実態調査より)



らんらんコラム

「誰もが生きやすい社会」

藤枝市 男女共同参画会議 会長
静岡産業大学 経営学部 准教授 土居 繭子

私は今、「多文化共生」をテーマに、学生たちと「誰もが生きやすい社会」について考えています。日本人学生と留学生がごちゃまぜの教室で、さまざまな国の事情が聞けるので、日本人の学生にも留学生にも、私にも、発見の多い授業です。

多文化共生といっても、異なる国の人々が共に生きることをうたっているわけではありません。国の違い、宗教の違い、年齢や性別、ハンディキャップがあるか否かなどにかかわらず、全ての人々が安心して暮らせる社会になることが目標です。

「国の違い」といえば、こんなことがありました。ずいぶん前の話になりますが、私がイギリスに留学していた時のことです。一人の教員が産休に入るというので、周りの教員が分担してその教員の授業を受け持つことになりました。「普段の仕事に加えて授業を担当するのは大変ですね」と私が言うと、「休暇を取るの^は当然の権利だから、その際に周りがフォローするのは当たり前のことだよ。自分も休暇を取る際には、みんなに授業を代わってもらうのだし」とイギリス人の先生は話していました。産休だけでなく、有給休暇をまとめて取得しリフレッシュするのも、イギリスでは「当然の権利」として受け入れられています。そういえば、「有休取得率」を国別で調べようとした時、「有休は100%取得するのが普通だから、『取得率』というデータは出していない」という国が多かったのを思い出しました。

日本では、2019年に政府が、年に10日以上の有給休暇が付与されている労働者には、年5日は確実に有休を取らせるように、全ての企業に義務付けました。そうまでしないと、有休を取らない(取れない)ということでしょう。

有休の取りにくさは、職場で膨大な業務量に対して人員が不足しているからという理由以外に、他の人に迷惑をかけてしまっただけという日本人の気質にも要因があるように思います。

私も数年前に、産休・育休を取得しました。ありがたいことに、私の場合はマタハラ(マタニティ・ハラスメント)を受けることもなく、妊娠中から今まで、周囲の人のあたたかい気遣いに支えられて過ごしています。周囲の人々の優しさに、改めて気づかされるとともに、私はこれまで、周囲の人に対して、「こんな風に接することができていたのだろうか」と反省もしました。今後は私も…と考えています。

「お互い様」という気持ちで助け合い、必要なときには周囲を頼るのも、「生きやすい社会」には必要なのではないかと思います。



静岡産業大学 経営学部
准教授 土居 繭子

●プロフィール
藤枝市在住。台湾、中国での日本語教育経験を経て、2012年より静岡産業大学で、主に留学生への日本語教育を担当。

男女共同参画推進事業所の紹介

仕事と家庭の両立に配慮しながら男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる事業所を紹介します。

pine village 株式会社

●認定日 令和3年12月28日 ●社員数 48人(女性4人)

2014年に若い創業者が「未来を創造する会社」を念頭に立ち上げ、土木工事を通じて社会基盤を支えている会社です。
土木、港湾、河川、建築工事等の公共・民間事業を行っています。

●ICT(情報通信)技術の活用

- ・生産性の向上による施工期間の短縮により、勤務時間にゆとりをもたらす

●働き方改革への積極的な取り組み

- ・ワークライフバランスの推進 ※残業なし
- ・社員は全員正社員
- ・育児・介護休暇を就業規則に明記
- ・ハラスメントに対する社内相談窓口を設置
- ・社員の希望に沿った人事配置

●能力向上をめざす社員の資格取得の推進

- ・特殊機械などの免許取得に関する受講料などの費用は会社負担
- ・講習受講日は出勤扱い



一般財団法人静岡県生活科学検査センター (藤枝検査所)

●認定日 令和4年2月9日 ●従業員数 20人(女性8人)

藤枝検査所では、以下の業務を行っています。

- 医薬品、医薬部外品、化粧品の原料や製品の理化学検査・細菌検査・安定性試験
- 食品や厨房などの設備・調理器具等の細菌検査
- 浄化槽放流水の水質に関する検査

●ジェンダー平等(SDGsの目標中5番)への取り組み

- ・業務の進行管理(スケジュール)を共有しています。
- ・業務自体の共有をチーム全体で行っています。

●STOPハラスメントの取り組み

- ・「あらゆるハラスメントを許しません」と、組織的な防止に向けた啓蒙・啓発活動を行っています。

●男女の多様な働き方への取り組み

- ・法令に基づく育児休業に加え、小学校就学前までの時間外勤務免除も適用可能です。
- ・時短勤務制度など、子育て支援制度の積極的活用への啓発を行っています。
- ・男性への育児休業取得を啓発しています。

